

「北伊予の伝承VI」編集中間報告

編集委員長 田中義一

各区長に推薦された私たち20余名の編集委員は、目下昨年の作定路線に従って終戦後の10余年を戦後と位置づけ、第VI集を「戦後特集」にしようとして各自が分担課題を決めかけているところです。来春には製本となりますので、心待ちにしていってください。

一昨年、第V集で「戦争」についての特集を出版しましたが、愛媛新聞でも紹介され多くの方々に読んでいただき、大変好評でした。中でも、従軍者名簿については、どこにも資料がなく大変な作業でしたが、きちんと仕上がりました。



北伊予を遠く離れて生活している方々にも大きな感動を与えました。また、召集令状（赤紙）のコピーに涙した方もいました。昔、役場に勤めていて、残業に残業を重ね、召集令状をたくさん書いたという方からも感想を寄せていただきました。

今、取り組んでいる第VI集では、戦後の混乱期（昭和20年）から、復興期（昭和35年）くらいまでを特集にしてみようとがんばっています。

私たちの取組みは、歴史の専門書ではないので、50年前のことも忘れてしまわないうちに、語りべ的なもので若い人々に伝えたいことを残したいと念じています。



某米兵の手記の一部をご紹介します。

ベトナム戦争の体験をした一人のアメリカ兵が「何日も飲まず食わずで逃げ惑う母子、レイプされる女性、母子の死体にながって泣き呼ぶ人々など、戦争は正義でも名誉でもない。残虐行為があるだけだ。」と言う。そのアメリカ兵が、憲法9条を初めて読んだ時「これが人が人類が生き残るための宝物だ。」と涙が出る程の衝撃を感じたと。そして「世界中の人たちにとともに守っていこうと呼びかけたい……。」と。

心のかけ橋をつくらう

古城幼稚園教諭

尾山美香

去る7月5日（木）、6日（金）に、第48回四国地区人権・同和教育研究大会が、松山市で開催されました。私はこの会に問題提起者として参加しました。

この大会に問題提起者として推薦をいただいた時は、私にできるだろうかと不安でした。

しかし、ある方が「この会は子どもたち一人ひとりが幸せに輝くために、みんなが人権について学び合う場よ。だから、あなたのありのままのメッセージを伝えてみればいいよ。」と話してくれました。

そこで、私が子どもとの生活の中でぶつかった悩みや感動、子を思う家族の愛情などをありのままに伝えたいと思えるようになりました。

何度も子ども姿を通して、教師の姿勢について多面的にとらえながら教師間で話し合いました。一生懸命に取り組めば組むほど、学級経営や指導上の悩みが大きくふくらみプレッシャーで眠れない日もありました。そんな時、いつも心に刻んでいたのは「人権・同和教育とは他者から学ぶことにより自分が変わることだ。」という言葉でした。丁寧

子どもたちがどんな気持ちで生活しているのか、親の願いにどれくらい近づけたかをみつめていくことで、自分に足りないものがみえてきました。それは相手の心に寄り添うことと、自分の意志を貫く強さでした。

今思えば私はいつだって一人ではなく、つらい時、「しんどいって言ってもいいんだよ。」と声をかけてくれた先輩や同僚がいて、自分を見失いそうな時、「あなたはこう思うん。」と語りかけてくれる恩師がいました。そして、「あなたはあなたらしく自信をもっていいのよ。」と肩をたたき、安らぎを与えてくれた家族がいました。いろいろな人たちとの出会いが、私に自分を変える勇気を与えてくれたのです。

この大会で、私は人の温かさや学び合うことのすばらしさを実感しました。今後この時の出会いに感謝しながら子どもたちとともに輝いていきたいと思えます。一人から二人、そして三人へと手をつなぎ合い、人権を大切にしたい心のかけ橋をつくらうことを願っています。